

令和4年4月18日

令和4年度 学校経営方針

小金井市立本町小学校

校長 佐藤 歩

1 はじめに

学校・保護者・地域が、本校の教育目標を共有し、協働しながらその実現に向けて全力で取り組む。今年度の重点課題は、次の3点である。

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- (2) 小金井GIGAスクール構想具現化の一層の推進
- (3) 小金井型コミュニティ・スクールに向けた体制の整備

2 学校の教育目標

多様な人との協働的な関わりや、「主体的・対話的で深い学び」を通して、心身共に健康で、活発な好奇心と創造的な問題発見・解決力、寛容な心を持ち、「歴史の変わり目」とも言える急激な変化の時代を生き抜く児童の育成を図るために、次の目標を定める。

◎強い子 ○やさしい子 ○考える子 ○はたらく子

【重点目標】

強い子：しなやかで折れない心と立ち直る力を持ち、問題に対して根気強く取り組み解決できる子

3 目指す学校像

支え合い、学び合い、高め合う学校

「支え合い、学び合い、高め合う」を、子供たちの中に、教職員の中に、そして、学校、保護者、地域の間の実現する。

- (1) 支え合う学校 … 挨拶、礼儀、ルール等の生活の基本を大切にする学校。
自尊意識や規範意識、共生する意識を高める学校。
- (2) 学び合う学校 … 子供相互の対話的活動を通して、学力を高める学校。
保護者や地域の教育力を積極的に取り入れ、子供も教職員も学ぶ学校。
- (3) 高め合う学校 … 子供が主体的に問題解決する力を育成し、学力の向上を図る学校。
教職員が研鑽し合い、組織的に教育力を高める学校。

4 目指す教師像

- 子供の心に寄り添い、使命感をもって根気強く指導に取り組む教師
- 授業で勝負するプロフェッショナルとして、研究・研修に励む教師
- 組織、社会の一員として、自ら課題を見出し積極的に職務を遂行する教師

本校に勤務する教員には、次のことを目指していただきたい。

- (1) 子供の心に寄り添い、使命感をもって根気強く指導に取り組む教師
 - 認め、褒め、励ます指導を基本とし、児童のよさを多面的な視点から見出し価値付ける。
 - 配慮を要する児童に対して、丁寧に粘り強く指導する。一人で抱え込まず、組織的に、一步一步指導を積み重ねていく。
 - 統率力を発揮し、児童に対して「ならぬことはならぬ」と、はっきりと言う。特に「いじめ」

に対しては、いじめを許さない断固たる姿勢で一貫する。

○困難から逃げない。自らの指導に至らなさがあつた場合、それを他人のせいにししない。児童のせいにししない。保護者のせいにししない。

(2) 授業で勝負するプロフェッショナルとして、研究・研修に励む教師

○自らの指導技術を磨く姿勢を常にもち、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に貪欲に取り組む。

○同僚から学ぼうとする姿勢をもつ。また、これまで自ら身に付けた教育財産を積極的に同僚や若手教員に発信する。

○他校の研究実践研修や専門機関の研修に参加し、授業力・指導力の向上に努める。

(3) 組織、社会の一員として、自ら課題を見出し積極的に職務を遂行する教師

○失敗を恐れずに新しいことにチャレンジする姿勢をもつ。

○助け合う姿勢、協力的な姿勢をもつ。仕事の「隙間」をお互いがカバーしようとする。

○外部（保護者、地域、外部諸機関）との連携を深め、積極的に地域の教育力を活用する。

○教育公務員としての自覚をもち、サービスの厳正に努め、決して服務事故を起こさない。特に、体罰、不適切な指導については、「暴力、暴言は、しない、させない、許さない」という強い意志をもって指導に臨む。

5 教育目標達成のための基本方針

(1) 「強い子（しなやかで折れない心と立ち直る力を持ち、問題に対して根気強く取り組み解決できる子）」について

○認め、褒め、励ます指導を基本とし、児童のよさを適切に価値付けることで自己肯定感を高める学級経営を行う。また、安心して間違えたり失敗したりできる雰囲気醸成し、前向きに挑戦する経験を積ませることで、「歴史の変わり目」とも言える急激な変化の時代においても、先行き不透明なことを楽しめるようなしなやかで強い心を育てる。

○人と人との関わりを重視し、挨拶や丁寧な言葉遣い、基本的な生活習慣の育成、自律心や社会規範を守る態度、情報モラルの育成、薬物乱用防止等についての指導徹底を図り、児童の健全育成に努める。特に、挨拶については、コミュニケーションスキルの第一歩であることを意識し、各学年による指導の一層の充実を図る。

○日常的な情報交換・共通理解を心掛け、教育相談体制を充実させ、全ての子供が全ての大人に相談できるよう組織的な対応に努める。また、SC、SSW、医師、子ども家庭支援センター、児童相談所等、関係諸機関と連携を密にし、いじめ、問題行動、不登校、虐待、ヤングケアラー等で支援が必要な児童に対して、迅速かつ組織的に対応する。

○特別支援教室（ひだまり学級）の円滑な実施に努める。配慮を要する児童への指導・支援については、特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教室専門員、特別支援教育支援員、学校生活支援ボランティア、SC、SSW、関係諸機関との連携を図りながら、個々の教育的ニーズに応じた合理的配慮を行い、個に応じた指導の充実を図る。

○不登校カルテを活用するとともに、登校支援コーディネーターを中心とした校内支援体制の活性化を図り、SC、SSW、関係諸機関とも連携しながら不登校の未然防止や早期対応に取り組み、児童の状況に応じた改善を図る。

○体力テストの結果を基に、児童の実態に即した体育の授業改善を行い、体力の向上を図る。ま

た、オリンピック・パラリンピック教育の成果を基に、「学校 2020 レガシー」として、学校環境を生かしたなわとびや持久走等の体育的活動の充実、外遊びの奨励を通して、楽しみながら運動に親しむ態度を育成するとともに、食育や保健教育、がん教育をはじめとする健康教育の推進を図る。

○プログラミング教育において、論理的思考力を育成し、課題の解決に向けて粘り強く取り組む態度を醸成する。

○小・中学校間での児童・生徒間及び教員間の交流を活発化し、中1ギャップの解消及び児童の心身の調和的な発達並びに幅広い指導法の積極的導入・活用を図る。また、スタートカリキュラムにおいて、分かりやすく学びやすい環境づくりをすることで、小1プロブレムの予防に努める。

(2)「やさしい子（互いの個性や存在を認め合い、温かいかわりのできる児童）」について

○教育活動全体を通して、人権教育を推進する。いじめや差別は許さないという毅然とした態度で指導にあたる。そして、偏見や差別のない好ましい人間関係の確立に努める。

○道徳教育の充実を図り、互いを認め合い、温かくかわる豊かな人間関係を培うとともに、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を育成する。

○答えが一つではない課題を児童自身が考え議論するような道徳科の授業を行い、道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度を育てる。

○年3回のアンケートやWEB-QUを活用し、いじめの早期発見に努める。また、学校いじめ防止基本方針に基づいた適切な指導・対応ができるよう教職員の意識を高めるとともに、学校いじめ対策委員会及び生活指導部会を中心とした組織的な取組により、未然防止と早期解決を図る。

○都立小金井特別支援学校との交流学習、点字体験、車いす体験等を通して、共に助け合い、支え合って生きることの大切さを学ぶ機会を充実させる。

(3)「考える子（互いの考えのよさを取り入れながら、主体的に問題解決のできる児童）」について

○繰り返し学習やスモールステップの学習、習熟度別学習や課題別学習を生かした算数少人数指導、ボランティアによる個別支援等、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図るとともに、週3回（火・木・金）の朝のモジュール学習、低学年の放課後学習等を通して、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。

○各教科等における言語活動を充実させるとともに、基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決型の学習や体験的な学習を積極的に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業への改善を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。

○一人一台端末を中心としたICT機器の日常的・効果的な活用により、児童が熟考・対話・体験する時間を十分に確保する。

○校内研究は、「主体的・対話的で深い学びを実現する国語科学習の創造～物語文を中心として～」をテーマに推進する。研究の手立ては、「①主体的に考えるための課題の工夫」「②発問の工夫」「③学びを深めるための交流の工夫」の3点とする。なお、学級担任は、学年の研究授業に合わせて、全員が授業を公開する。

○管理職による授業観察に合わせて、全教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を公開し、それぞれが年1回以上授業を参観することで、授業力のさらなる向上を図る。

○外国語、外国語活動については、ALTと連携し、ゲーム的な活動、ICT機器の効果的な活

用（映像資料の提示、教育支援アプリの活用）等を工夫しながら、「楽しく話したくなる」授業の充実を図り、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力を育成する。

○週2回の朝読書や年間2回の読書週間の設定、長期休業中の学校図書館の開放、図書ボランティアの活用による読書活動の充実を図り、読書週間を定着させ、児童の豊かな情操を育むとともに、柔軟な思考力・想像力を養う。

○聞くとき、話すときのルールやチャイム着席、学習用具の準備、ノートの使い方等、学習規律の徹底を図り、学習への基本的な姿勢を児童に確実に身に付けさせる。

(4) 「はたらく子（自ら仕事を見付け出し、みんなのためにやり遂げようとする児童）」について

○小金井市気候非常事態宣言を受けて、社会の問題を自分事化する教育活動の充実を図る。東京学芸大学と連携した森林教育や校庭芝生を活用した環境学習等を通して、環境問題を自分事として捉え、自分にできる取組を考え実践しようとする態度を育成する。

○特別活動の全体計画、年間指導計画をもとに、キャリアパスポートを活用しながら、主として学級活動を通して規範意識の醸成を図る。

○話し合い活動や異年齢集団による望ましい集団活動を充実させ、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的な態度を育成する。

○各種体験活動、ボランティア活動等を通して、発達段階に応じた望ましい勤労観・職業観を育成し、児童が自らのよさを自覚し、将来にわたる生き方を考えられるようにする。

6 信頼される学校づくり

(1) 令和5年度からの小金井型コミュニティ・スクール実施に向けた体制の整備を進め、近隣の大学や地域の人材、施設等と連携し、児童の学習意欲・学力を高めるとともに、地域への愛着を深めることができるようにする。

(2) 学校公開や道徳授業地区公開講座、セーフティ教室等を積極的に行うとともに、学校運営連絡会や保護者等における学校関係者評価を尊重し、開かれた学校経営を推進し、家庭、地域との連携を強化していく。

(3) 学校便りや学年便り、ホームページ等を通して、学校の情報を発信し、学校に対する保護者・地域からの一層の理解と協力を得られるようにする。

(4) 定期的な安全指導、多様な状況を想定した避難訓練、各種安全教室等を通して、安全に対する児童の意識の向上を図る。また、防災や個人情報の管理、アレルギーへの対応など、教職員の危機管理意識を高めるとともに、日常の週番による児童の見守りを確実に行う。

(5) 小金井市の感染症予防ガイドラインに従って、新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底し、状況に応じて柔軟に教育活動を進めていく。

7 学校の組織力の強化

(1) 「効率化・省力化」「簡素化・削減」「共有化」を視点として、会議や行事等、業務の見直しを検討し、校務改善を一層推進する。カリキュラムマネジメントの視点も生かしながら教育内容の精選を図る。

(2) 主幹教諭・主任教諭を中心に、校内OJTを推進し、教員の資質能力を向上させ、教育活動の充実を図る。